

“絆”きずな

訪問リハビリテーション・フォーラム2018 パートI開催

平成30年5月20日(日)、東京ビックサイト(東京都)にて日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会が主催し「訪問リハビリテーションフォーラム2018」が開催され350名を超える方にご参加頂きました。

今年度は、医療介護保険同時改定を踏まえた在宅リハビリテーションの指針を確認するとともに『他職種との協働』をテーマとしました。特別講演では厚生労働省 老健局 老人保健課 課長 鈴木 健彦氏より「2018年度診療報酬・介護報酬改定からみたリハビリテーション専門職に期待すること」、基調講演は在宅医療に従事されている柏木 潤一氏(柏木クリニック 院長)より「在宅医療からの訪問リハビリテーションに期待すること」をご講演いただきました。

シンポジウムでは、佐藤 美穂子氏(公益財団法人 日本訪問看護財団 常務理事)より訪問リハビリテーションと訪問看護の協働、中林 弘明氏(一般社団法人 日本介護支援専門員協会 常任理事)より訪問リハビリテーションと介護支援専門との協働、馬袋 秀男氏(一般社団法人『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会 特別理事)より訪問リハビリテーションと訪問介護との協働について発言を頂き、参加者と共に課題を共有し訪問リハビリテーションの方向性が示されました。

一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 組織化班

事業所リレーエッセイ パートII 気仙沼

山形にて22年間生まれ育ち、人の役に立ちたいという想いでこの作業療法士という職業を選びました。社会人1年目で訪問に出ることに期待や不安、様々な思いがありました。しかし、医療従事者、資源が圧倒的に少ないこの被災地で何か自分にできることはないかと考えこの地で働くことを決意しました。

臨床の間では、わからないことをすぐに聞けない不安、一人で決断しなければならない緊張感、さらに病院との教育や制度の違いに焦りを感じたこともあります。しかし、それ以上にその人の生活歴や人生観を知り、その一助となれる在宅ならではの楽しさややりがいを日々強く感じています。キャリアが何年目でも、在宅に出れば同じ1年生です。この1年間で得た訪問リハビリの楽しさをこれからの医療を一緒に担っていく後輩たちに伝えていければと思っています。

一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 松木 裕美子
気仙沼訪問リハビリステーション 作業療法士

南から始まる「訪問リハビリテーションの魅力紹介」 三重県

私たちが出会う対象者の多くは人生の終盤です。病気や障害、老化によりいろんなことをあきらめたり手放したりしてきた方が多いはず。そんな中私たち訪問セラピストに出会うのです。訪リハではありとあらゆる手段を駆使してその人の笑顔を追うことができます。例えば、『買い物をしたい』という想いに対し歩いて買いに行く、セニアカーに乗って買いに行く、スマホを使ってネットショッピングをする、近所の仲良しの友達を巻き込んで一緒に買いに行く等々、対象者の想いをかなえるために我々が行える手段は無限にあります。それゆえ、対象者の笑顔の為に、各療法の専門性のみならず様々な能力が必要になってきます。リハビリテーションの理念のもと、我々は対象者の笑顔にとことんこだわれる仕事ができるのです。それが、私の考える訪リハの魅力です。

三重県訪問リハ・地域リーダー 理学療法士 大藤 正登
万葉の里 訪問リハビリテーション事業所